

化粧と肌の社会的関係 —なぜ、あなたは化粧をするのか?—

Makeup, Skin and the Social Perception —Why do people make up?—

森下 覚

Satoru MORISHITA

E-mail: xpko@k9.dion.ne.jp

和文要旨

本研究は、何故、人は化粧を行なうのかという素朴な問いを明らかにすることを目的にした。研究1において、化粧水を使用する行為は、“肌の水分量”を対象とし、主体が“肌の水分量”に価値・意味を認める文化に属することで動機付けられ行なわれていた。そして、ファンデーションを使用する行為は、“自然な顔”を理想とし、主体が“自然な顔”に価値・意味を認める文化に属することで動機付けられ、対象である肌に行なわれていた。この“肌の水分量”、“自然な顔”は誰にとっても同じ現実ではなく、化粧文化の価値・意味を認め、化粧文化に属することによって可視的になる現実であった。研究2では、研究1で示したインフォーマントたちが知覚していた肌の現実が、化粧の文化的実践の影響を受けており、化粧文化に相対的であることを示していた。本研究であげた2つの化粧行為は、行為の対象と動機が密接に関係していたという点で共通していた。

キーワード：化粧、肌、文化、社会文化的アプローチ、現実
Keywords：Make up, Skin, Culture, Sociocultural—approach, Reality

1. はじめに

何故、人は化粧を行なうのであろうか。日本の多くの女性たちは、日常的な営みとして化粧（メイクアップとスキンケアの両方を含意）を行っている。阿部は、10代から60代のほとんどの女性が何らかの形で化粧を日常的な習慣として取り入れていることを示している [1]。化粧を行なう人たちは、メイクアップ、スキンケアに対して強い興味・関心を持ち、変遷していく肌の科学やそれに伴う化粧技術を随時更新し、その変化に伴い自らの信念や行為を更新している。本研究は、心理学の社会文化的アプローチの視座から化粧と肌の社会的関係について検討し、その社会的関係の中に化粧行為の動機を再定式化するものである。

社会文化的アプローチとは、社会歴史的アプローチ、活動理論、状況論などの総称であり、人間の行為と文化・歴史の関連について焦点化

するものである [2]。社会文化的アプローチにおいて人間の行為は、常に文化的であり、文化を構成・維持する役割を持つとされる。例えば、化粧水を塗るという行為は、化粧水という文化的な人工物を使用する点で、文化・歴史を背負った文化的な行為であると言える。同時に、化粧水を塗るという行為は、主体が化粧文化に属することの表明にもなっている。つまり、化粧水を使用することは化粧文化の存在を承認し、また、化粧文化を構成・維持する行為であるということ出来る。私たちの日常的な営みによって構成されている文化は、身の回りの現実に強く影響を与える存在でもある。例えば、夜空に浮かぶ星を想像してほしい。冬の星座として馴染みの深いオリオン座は、ギリシア神話の中に出てくる巨人オリオンに例えたものである。しかし、昔の日本では、オリオン座の星座の位置関係は、鼓のように見えたため、星座全体を指し“鼓星”

¹⁾ 横浜国立大学大学院、Yokohama National University Graduate School